

渡辺ハウジングOBの皆様と  
未来のお客様にお届けする

# やすらぎ通信

渡辺ハウジング  
03-3959-8743



新型コロナウイルスの感染が  
終息しないまま、新しい年を迎  
えました。

私達は、これまでに経験したこ  
とのない状況の変化に戸惑い、

不安は消えませんが、健康である幸せを実感しつつ、日々過ご  
したいと思います。



さて、今年は「牛（丑）年」。牛は昔から食料として  
だけでなく、農作業などの労働力として人間の生活に欠かせな  
い動物でした。勤勉に良く働く姿が誠実さを象徴しています。  
先を急がず一步一步着実に自分の目の前の仕事をこなすこと  
が将来の成功につながるかもしれません。



又、牛は神様のお使いとも言われますので、縁起の  
良い年になることが期待されます。

何はともあれ、前を向いてしっかり歩いていきましょう。

今年もよろしくお願いいたします！

## 家を建てる段取り（5）

引き続き、家を建てる際に大切な段取りについて書かせていた  
だきます。どんな段階を経て家が完成するのかを楽しみながら  
ご理解いただければ幸いです。

### 【家づくりは、誰とするの？】

家のイメージが固まったら、住宅会社を選びます。

住宅会社は家づくりのプロです。判らないことを何でも  
気軽に聞いて、どんな家を作りたいか、よく理解してく  
れるパートナーを選びたいものです。

大手ハウスメーカーの場合は、社内に各方面の専門家を  
抱えていて、資金計画から入居後のアフターサービス、  
更には改築まで相談に乗ってくれるというメリットが  
あります。

しかし一方で、画一的な家になりがち  
というデメリットも。



自分らしい家を求めてオプションを追加していくと、気  
がついたら当初の予算を大幅にオーバーしてしまう、な  
どということもあります。

その点、地元の工務店や個性的な家づくりをする住宅会  
社などでは、つくり手の顔が見える安心感とデザインや  
間取りに融通がきいて、納得して自分らしい家づくりが  
できるというメリットがあります。

ただし、会社によって得意・不得意が大きく分かれる場  
合がありますので、その会社の評判を聞いたり、実際に  
建てた家を見たりして十分に検討しましょう。

又、並行して土地探しをする場合、土地のローン審査に  
家のプランが必要になります。ローンの実行には1~2  
ヶ月程度かかりますが、その短期間に住宅会社を探し、  
大慌てでプランを作ったのでは、後悔することにもなり  
かねません。思った通りの家づくりをするためにも、土  
地探しよりも先に住宅会社を選びましょう。



次回に続く

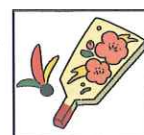
## 「二十日正月・晦日正月」

大寒が始まる1月20日は「二十日正月」とも呼ばれ  
ます。この日はお正月の終わりとなる節目の日とさ  
れ、昔は農作業を休む人もいました。又、新年の間、  
働きっぱなしだった女性たちが一息つくために小正  
月に里帰りし、この日に帰宅することもありました。  
正月料理から残った魚の頭や骨を野菜と煮炊きした  
り、鍋やお団子を食べたことから「骨正月」「かしら  
正月」あるいは「団子正月」と呼ぶことも。

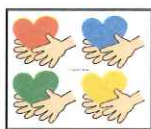
又、地域によっては、1月31日を晦日正月として、  
お正月の最後の日として祝うこともあります。

松の内に挨拶回りに行けなかった親族を訪問したり、  
お餅をついて神様に供える地域もあれば、この日に年  
越しそばを食べたり、晦日団子といって、家の戸口に  
お団子を刺す場所もあるようです。

地域によって伝統や日は異なりますが、  
日本のお正月は実にさまざまな風習が  
あり奥深いものです。



思いやり・・・



ある人が神様に会いました。

この時とばかり、その人は日頃から気になっていたことを尋ねました。

「神様、教えてください。

天国って本当にあるのですか？

地獄なんて本当に存在するのですか？」

自分の目で確かめるようにと導かれたのは・・・

地獄にある食堂のテーブルの上には、たくさんの美味しそうな料理が乗っています。

食事の時間になると、地獄にいる人間達が食堂に続々と入ってきます。

彼らはひどくお腹を空かせており、その表情は何だか生きる希望さえ、すっかり失っているように見えます。

いつも不平不満をこぼし、顔まで陰鬱。

身体は、まるで餓鬼のように骨と皮ばかりのやせ細った手足に、ポッコリと膨らんだお腹をしています。

早速、皆がテーブルを囲んで席に着きました。テーブルの上には、長いお箸が置いてあります。手づかみで食事をするのは、禁じられているので、その使いにくい長いお箸で食事をしなければなりません。



彼らは皆、必死にそのお箸でご馳走を食べようとするのですが、お箸が長すぎて食べ物が自分の口に入りません。

結局何も食べることができず、空腹のまま愚痴をこぼしながら食堂を出ていきました。

一方、天国の食堂はというと、テーブルの上には地獄の食堂と全く同じの、美味しそうな料理が並んでいます。

天国にいる人達は皆明るく満ち足りた表情。幸せそうに微笑んでいるようにさえ見えます。

そして食事の時間になると、彼らはテーブルを挟んで座り、地獄に住む人達と同じ長いお箸を使って食事を始めました。

もちろん、天国でも手で食べることは許されていませんが、皆楽しそうに食事をしています。

地獄の食堂と唯一違うのは、彼らはそのお箸を使って、自分ではなく向かい側に座っている人に食べさせてあげているのです。



その為全員が楽しく食事ができて、お腹も心も充分、満足そうに食堂を後にしました。

天国でも地獄でも、置いてあるものは全て同じ。何一つ変わらないのに・・・??

つまり、自分のことばかり考えていては幸せになれない。相手のことを思いやることができたならば、自分もきっと幸せになれるはず。

この心の在り方が大切なのですね。

#### 「編集後記」

遅ればせながら、明けましておめでとうございます。

例年とは違った年末年始の過ごし方を余儀なくされましたが、皆さんは如何お過ごしでしょうか？

コロナの感染拡大を機に、長い時間を一緒に過ごすことになった家族や、身近にいる人たちと向き合い、その大切さをあらためて感じる事ができたのも事実です。

現在も大変な状況が続いていますが、厳しい冬があるから春が嬉しく感じられるものです。

辛い時期こそ皆が手を携え、暖かい春を待ちましょう。

コロナだけでなく、風邪などにも十分気を付けて、どうぞお元気でお過ごしください！



「やすらぎ通信」をメールでご覧いただけます。

ご希望の方は、アドレスをお知らせください。

編集責任者 渡辺 田鶴子